

## 地域での研究・実践活動の広がりをめざして

—鹿児島における取り組みの報告—

内村 成孝（鹿児島県／鹿児島地域協同組合研究会副会長）

鹿児島地域協同組合研究会が6月18日に発足しました。これについては、協同総研第4回総会の「94年度事業計画」で触られています。それを補足するために経過と今後の活動計画などを報告します。

### 結成総会に併せて協同組合研究集会

結成総会は、県歴史資料センター黎明館講堂で開きました。当日までの入会申込者は、コープかごしま、医療生協、鹿児島大学生協、労働者協同組合、農協、鹿児島総研などの関係者24人に鹿児島大教育学部・水産学部、鹿児島経済大学経済学部・社会学部、南九州大園芸学部の11人、計35人です。

結成総会は、準備会の経過報告のあと規約、94年度活動方針・同予算を原案の通りに決め、会長・神田嘉延さん（鹿児島大学教育学部学部教授）以下の役員を準備会の推薦の通り承認しました。

引き続き同会場で、第1回協同組合研究集会を催しました。参加者は、会員外を含めて62人。記念講演は、福岡・エフコープ理事長・石田静男さんの「これからの生協と私の夢—ベーク報告を読んで」。石田さんは、鹿児島大学生協や鹿児島市民生協（コープかごしまの前身）の専務もされた方で豊かな経験と海外の生協視察でのエピソードを交えて今後の生協の課題を話されました。

続いて実践報告に移り①「私たちの地域づくり活動」として、平川ミヨ子サン（JAさつま日置婦人部日吉支部長）が、本年1月から毎日取り組んでいる高齢者給食宅配サービス活動②「私たちの健康を守る活動」として、増山ゆき子さん（鹿児島医療生協保健委員連絡会会長）が、900人を超す保健委員を中心にした保健予防活動③「私たちの暮らしを守る活動」として、田平睦子さん（コープかごしま家計活動グループ）が、暮らしの実

態をつかみ、暮らしに生かす家計簿記帳活動—についてそれぞれ報告しました。

結成総会と研究集会の様子は、地元の民放がニュースで放映したほか新聞3社が報道しています。

### 1年余のベーク報告の学習を基礎に

鹿児島地域協同組合研究会は、92年11月から始めたベーク報告の研究会（地域協同組合研究会）が母体になったものです。同会は、医療生協や購買生協、大学生協、労働者、農協などの職員や研究者ら参加。ほぼ1カ月に1回の例会で、鹿児島の協同組合が抱えている地域の課題や協同組合に期待されていることなどベーク報告との関係で論議してきました。

そのなかで昨年夏から例会の参加者の枠を広げた「研究集会」の開催が話題になっていました。が、7月の第8回例会のあとの連続集中豪雨や台風などで取り組みが遅れたのです。予定していた12月10・11日は、代わりに忘年会を兼ねた研究交流会（宿泊）とし、この場で、これまでの有志による内輪の研究会でなく、地域での研究・実践活動の広がりをめざすために会の規約や活動方針・計画など会そのものの基礎を確かなものにし、一回り大きな組織にすることを確認しあいました。

これによって具体的な準備に入ったのが1月から。規約案で論議になったのは、会の運営方法です。「会務の企画・立案・執行は事務局が担当し、運営委員会はそれを審議すればよい」とする意見ができました。が、「参加民主主義」の大切さを論じ、協同組合理事会の形骸化を問題にしながら事務局まかせは筋が通らないところから原案の通りに運営委員会は、会の活動推進と会員の活動を援助し、会務の企画・立案・推進を調整する機関とし、運営委員が会務分担することになりました。



このほか「協同組合組織の代表を運営に参画させたらどうか」の意見がありました。が、個人参加の研究会であり、団体が「賛助会員」になった場合、「参与」を委嘱し、会の運営・活動について助言・援助してもらうことにしております。

頭を痛めたのが年間の会費の額です。組合員や学生の参加を得るために高額は設定できない。といって低額では財政が賄えない——ことから当初の2千円を3千円にし、学生会員は減免できる規定を設けました。

あれやこれやで、規約案は4回、活動方針案は3回、予算は2回修正して結成総会を迎えたようなわけです。会員の方は、幸いに発足時目標の30人を達成できました。

### これからの活動の取り組み

会では、7月12日に第1回運営委員会を開き、結成総会で承認された本年度活動方針の具体化を話し合い、運営委員の会務分担を決めました。

会の活動として重視しているのが「会報」の発行です。会は郡部の農協参事や部・課長に隣県の大学教官ら鹿児島市外在任の会員が増えました。月1回の例会に毎回の参加は、困難が予想されます。旧研究会でも「会報」を出していましたが、今度は、例会の結果を伝えるだけでなく、紙上参加もできるようにするなど会と会員を結ぶものとして充実したものにします。すでに8月上旬に新しい第1号を発行する作業に入っています。

例会の研究テーマは、前期が「協同組合職員の在り方」。後期が「総代会の在り方」。パーク報告で提起されている「参加民主主義」をどう具体化するかを研究します。8月30日の第1回では、いま研究者の間で論じられている職員論の中心的課題についての報告を受けて、当地での研究の方向を探ります。

「協同組合職員の在り方」に関連して「組合員・職員の意識共同調査」を実施します。調査項目や調査は、協同組合労組幹部の運営委員の間で検討中です。

協同組合職員の実務の役立つ協同講座を年度内

に2回開きます。第1回は、機関紙編集技術講座の計画です。講座では、鹿児島大学が10月22・23両日、JA共済保養施設・大霧荘で開く公開協同組合理論講座に協力します。同講座は、パーク報告をテキストに協同組合職員を対象にしたものです。

第2回協同組合研究集会は、「ロジデール公正開拓者組合創立150周年記念」として来年1月下旬に催します。第1回の場合、各協同組合組織の協賛を得るための事前協議・申し入れが遅れた反省から今度は、今秋には開催要領を決め、早めに取り組みを始めて100人規模の集会をめざします。

会と会員の研究の成果は、『研究年報』にまとめ、年度末の来年5月の発刊を予定しています。こちらから早めに「編集・発行計画」を明らかにし、より多くの会員の論文・論考を掲載するように努めます。

このほか、会員の研究・学習・実践に役立つ『図書・資料リスト』を発行します。いま、鹿児島大学生協所属の運営委員が、入手できる協同組合関係の図書・資料を調査しているところです。

さらに、県内の協同組合の総代会議案・資料や機関紙、各種の調査報告書、統計資料などの資料の収集をすすめます。集まった分は順次、鹿児島経済大に寄贈しますが、これはだれでもが閲覧できる手はずになっています。

以上が本年度の主な活動計画ですが、規約に掲げた活動には、地域づくりに役立つ「提言集」の発行、学習会などへの講師の斡旋などもあります。

鹿児島県の場合、離島があり、県域が南北に長くて1枚の地図に納まらないほどです。交通の便もよくありません。地域での研究・実践の広がりをめざし、〈だれでも・いつでも・どこでも〉研究会の活動に参加できるようにするには、どうするかが今後の課題です。手始めに職場グループごとに「会報」の配布世話人を設けましたが、将来は、職場グループ単位の例会活動も推進することを考えてます。(本会の連絡先 〒892 鹿児島市東坂元二丁目16-18 内村方 ☎0992 (48) 0596)